学校教育実践コース（家政）・生活環境コース　　子ども・家族福祉

子ども・家族福祉についての知識・理解と問題意識の醸成

家政教育・金子 省子

１．授業科目の概要

学校教育教員養成課程の家政教育専修及び総合人間形成過程生活環境コースの選択科目である。家庭科教員免許状の選択科目となっている。また，保育士資格の「保育の本質・目的の理解に関する科目」群の必修科目である。

受講生は，生活環境コース 3 回生 7 名，同 4 回生 1 名， 学校教育教員養成課程 3 回生 14 名計 22 名だった。本年度は学校教育教員養成課程が過半数を占めている。学校教育教員養成課程の専修は家政教育 3 回生が 3 名，保育士養成コース 3 回生 10 名だった（1 名は家政でかつ保育士コース所属）。

授業の目的は「児童を取り巻く環境の現状をふまえ，児童福祉の理念，制度，方法，諸領域に関する課題について理解する」である。

主として学部 DP1（知識・理解）に関する科目として，次の 4 点についての知識・理解に関して到達目標を掲げている。①児童問題・児童福祉の歴史的展開，理念　②法制度と実施体制　③保育，母子保健，児童養護，健全育成などの諸領域についての施策の現状・課題　④児童の権利条約の視点から捉えた児童福祉の課題

授業形態は，講義が中心である。教科書を使用し，毎回の授業概要のレジュメ及び関連する資料配布，一部パワーポイントを用いた。また，児童相談所や児童養護，児童虐待に関連する内容のビデオを使用した。このほか，グループごとにディスカッションをする時間を複数回設けた。

２．DP 対応学生認識調査の結果

目標に掲げたＤＰ１に関して，「教育に関する確かな知識」，「自分の専門分野の知識」については，「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」との回答であった。概ね目標を達成できているとの評価だった。

一方，授業時間外学習についての回答では，課題によるもの，自発的なものの平均値がともに 1 時間未満と低かった。自発的読書などは一部の学生に限られていた。前半の確認テストに向けての準備，教科書を読むこと，新聞記事収集や地域での情報収集を課しており，教員が想定していた時間数を下回っていた。

３．授業アンケートの結果

第 15 回の最後に実施した。回答者数は 22 名だった。

＜7 項目の設問について＞

5 段階評定（a：強くそう思う　b：ややそう思う　c：どちらとも言えない　d：あまりそう思わない　e 全くそう思わない）で回答を求めた。進度・難易度については 5 段階（a：とても難　b：やや難　c:適切　d：やや容易　e：とても容易）で尋ねた。

(1)「出席状況の良好さ」は，a が 10 名，b が 9 名，c が 3 名で全体的に良好との自己評価だった。本年度は後期の就職活動による欠席がないことから，おおむね良好だった。

(2)「シラバスの提示，予定の伝達など」については，a が 18 名，b が 4 名で良好との回答だった。

(3)「授業テーマと構成・展開の明確さ」については，a が 13 名，b が 6 名，c が 3 名だった。毎回授業の流れ等を記載したレジュメを配布した。大半の学生には理解されていたが，明確に捉えられない学生も一部いたと考えられる。

(4)「教科書・資料利用の適切さ」については，a が 10 名，b が 10 名，c が 2 名で肯定的な評価だった。

(5)「進度や難易度の適切さ」については，「適切」が 17 名，「やや難」が 5 名，「容易」との回答はみられなかった。

(6)「意見の発表や意見交換の機会の保障」については，a が 3 名，b が 14 名 c が 4 名，d が 1 名おり，十分でないと捉えた学生がいたと考えられる。

(7)「今後意欲をもって学びたい課題の発見」については，c(「どちらともいえない」) 1 名以外は，a が 5　名，b が 16　名と大半の学生が課題意識をもてたと回答していた。

＜自由記述について＞

「良かった点」については，全員が記述しており次のようにまとめられる。

①テーマについて専門的に詳しく知り，子どもをめぐる問題について深く考えることができた。

②知識を実社会と結び付けて考えたり，他の人と意見交換できた。
③新聞記事の紹介やドキュメント映像等で今日的課題についてリアルに学べた。
④教科書だけでなく，先生の体験や様々な情報が興味深かった。
⑤保育士として役立てられる，親として将来役立てられる。
＜改善した方が良い点＞
22 名中 12 名が記述していた。次の 3 点にまとめられる。
①意見交換，発表，グループワークを増やしてほしい
②配布資料が見にくい。わかりにくい。
③板書が少ない，メモが取りにくいので，レジュメの記述を細かくしてほしい。
特に，①については，多数の指摘があった。

４．考察

（1）専攻及び進路希望の異なる学生に対する問題意識の醸成

家庭科免許取得希望の学生，保育士希望の学生，特にこれらを希望しない学生，という多様な学生の問題関心をふまえた働きかけをするよう心がけてきた。例えば，保育制度についての学習は，保育士希望者にとっては，将来の職場に関する内容であり，家庭科教員希望者にとっては，生徒にこれについて教える内容である。

講義を主とする授業ではあるが，問題関心をもち学習をすすめるために，可能な限り考えを述べたり話し合ったりできる時間を設けたいと考えた。しかし，学生からは評価する意見の一方で，十分に意見を述べる時間がなかったとの意見もみられた。

最終回，「今後の自分自身のいろいろな立場を想定して，学んだことをどのように生かしたいか」という問いには，「親として」支援を受ける場合だけでなく，困難な親に助言ができたり地域の施設や支援の情報を伝え支援できること。「教師として」子どもが SOS を出せる人になることや，学校内や校外の施設・児童相談所等と連携して，子どもとその家族の支援をすること。「保育者として」園児や親の状況に気づき虐待に気づく，通告する，親への助言。地域での子育て支援，情報発信。「地域住民として」親同士が支え合えるような場の提供などが記述されていた。

（2）知識・理解の定着

毎回のレジュメはＡ４で１ないし２ページとし授業の流れ，主な用語などを記載して配布した。一部の学生からは板書や丁寧なレジュメの解説がほしかったという意見があった。また難易度や進度について「やや難」という学生が数名おり，試験についても，理解度にかなり差がみられた。受け身にさせずかつ理解を充分に可能にするための工夫がさらに必要である。

レジュメとは別にほぼ毎回配布した参考資料は，子ども・家族福祉問題に関するデータ，最新施策に関する行政発表資料，新聞記事などで，かなりの枚数にのぼった。教員としては配布資料の作成等に時間を割いたものの，学生には読みにくく理解しにくいものがあったようだ。内容・分量について再検討し，技術的なことも含め作成・配布に関してさらに配慮したい。また，教科書との関連性，補完性についても一層留意したい。

(3)授業時間外学習

子ども・家族福祉の幅広い分野についての情報を伝え知識の定着をはかることとグループワーク等の活動を，限られた時間内で行うことは，従来からの課題である。また，理解についての個人差の問題もある。これらについて，確認テスト以外にも予習・復習を促すような課題設定をさらに検討したい。

本年度は新聞記事の収集を課し，授業内で受講生間の問題意識の関連を捉え，グループディスカッションをした。また，地域における子ども・子育て・福祉関連情報について，各自が地域でアクセスして得た情報をもちより発表する課題を課した。その際，教師，保育者，保護者，近隣住民などグループ内で各自がなんらかの立場を想定しての収集とした。情報内容だけでなく，情報を得る過程で地域に目を向けること，情報源への気づきなどをねらいとした。ネット情報に依存しがちであることや，問題を抱える当事者の周辺の様々な人々の存在を考えられること，さらには情報発信者としての視点も得られることを期待した作業であった。期待したこのような視点は(1)でみたように今後に向けての課題意識にも一定位置づいていると考えられる。しかし，前述の DP アンケート結果などから取り組みの時間等に課題があると考えられる。今後の授業時間外学習課題の設定については，より丁寧な働きかけ（回数・条件設定）と授業時間内での発表やグループワークへの接続に工夫が必要であると考える。